

Rina Inoue



Kumwetulira

Mwa dzuka bwanji ? Dni ka lankhula Malawi.

関町北小学校のみなさん、こんにちは。いよいよみなさんも学年の終わりに近づいてきましたね。この1年間を振り返ってみてどうでしょうか。できるようになったこと、頑張ったこと、できなかったこといろいろ思い浮かぶでしょうか。でもまずは1年間、無事に過ごせたことに感謝をし、自分をほめてあげてください。そしてそこからまた、新しい目標ややりたいことを見つけていってくださいね。

さて、わたしはマラウイでの生活を終えてまもなく帰国することになります。このマラウイでの日々は本当にかげがえのないもので、時に苦しいことさみしいこと悲しいこと、いろいろな苦い経験とともに、それを超えるような新しい出会いや人々の優しさやともに分かち合える喜びを経験することができました。当たり前だと思っていた、電気や水道が当たり前でない生活。食べたいものや飲みたいものがあつたら、すぐにいけたスーパーがない生活。日本語で言いたいことが言えた友だちが近くにいない生活。本当にあげたらきりがなくらい日本とマラウイでは環境が違います。それでもわたしがマラウイで生活できたのは、マラウイの人々の温かい助けと温かい関わりがあつたからこそだと本当に思います。電気がなくてうまく火がつけられなければつけてくれる、顔色が悪いとすぐに体調が悪いの？と心配してくれる、さみしくない？と声をかけてくれる。そんなすてきな人たちがマラウイ

にいることは、マラウイという国に来て初めて知ることができました。もちろんマラウイの人々とは、肌の色も違えば、生まれた環境も違う、言葉も違います。それでも遠く離れた日本という国からきた私に優しく接してくれます。たとえ言葉が通じなくても、通じるものがあります。なんだと思いますか？そうです“笑顔”です。

高橋優さんの「福笑い」の歌詞にもありますが、「世界の共通言語は英語ではなくて笑顔だと思う」わたしも本当にその通りだと思いました。この手紙のタイトル「Kumwetulira」はチェワ語で「笑顔」という意味です。マラウイの子どもたちも、そして日本の子どもたちも、それだけでなく世界中の子どもも大人もみんなが笑顔でいられる世界になるといいなと心から思います。

話が大きくなってしまいましたが、この手紙を通して、少しでもアフリカやマラウイという国について興味をもってくれる人がいたら嬉しいです。最後までご愛読いただきありがとうございました。またお会いできる日を楽しみにしています。

Tionana ! Zikomo !

